

関連項目：教育活動プラン①、③、④

ともに課題に向き合い、解決に向かって協力し合う仲間作り

目的

今年度は、「ねばり強く取り組む子（自立）」に重点を置いて取り組んでいる。そこで、特別活動を核にして児童一人ひとりが集団の一員としての自覚や責任感を高めて活躍できる場を設定し、今自分がしなければならないことに主体的に取り組もうとする児童の育成を目指している。

内容

● みんなのめあてを大切に作る学級づくり

例) 2年生のめあて「欠席者0日 100日達成」

4月の始業式から、インフルエンザなどの流行で1か月あまり欠席者が絶えなかった2年生は、「みんな元氣」を合い言葉にして欠席者0日を目指すことになった。全員が「運動・食事・清潔」を心がけられるように、関連する学習や給食の時間、朝の活動の時間などを活用して、「自分で元氣な体づくり」ができるようにしている。2月17日には、めでたく目標達成をお祝いする会を開くことができた。

● 委員会活動の活性化で上学年を育てる

昨年度、校内でのけがの発生数が近年最多となった。それに伴う様々な生活指導上の問題について、上学年児童に「自分たちの力で何かできることはないだろうか」と投げかけた。その結果、各委員会から以下のような新規企画が提案・実施された。

保健委員会・・・けがの原因を分析し、可能なものは改善し、けが防止の注意を呼びかける。

体育委員会・・・昼休みにも自主マラソンに取り組めるように音楽を流す。

掲示委員会・・・自分たちでポスターを制作し、呼びかけに協力する。

放送委員会・・・みんなが興味をもつ番組を企画して給食時間に流す。

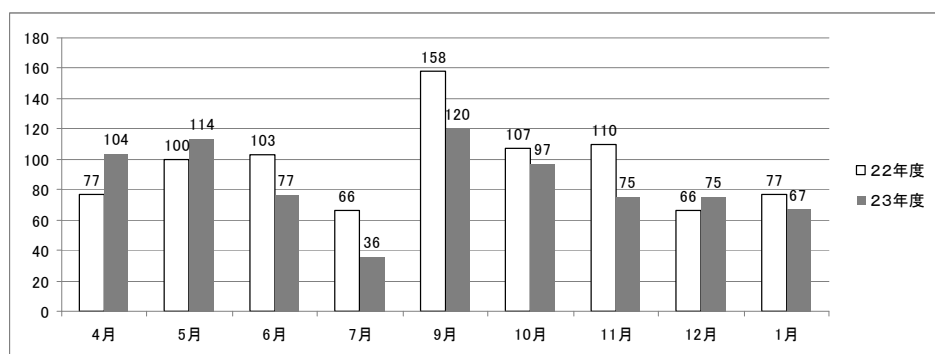
児童会・・・廊下を走る人が多くけがも多いので、全校生に危機感をもってもらうよう放送する。

● 一人ひとりが1年間を振り返る場「自分への手紙」(言語活動の場)を設定する

毎年、年度末には朝の活動の時間に、全体で取り組む言語活動の場として1年間の振り返りの場を設定している。「今年がんばったことベスト5」を個人カードに箇条書きにして、自分のがんばりと成果を振り返る。そして、そのカードを持って一人一人が校長先生と面談をして賞状にサインをもらう仕組みである。休み時間や放課後には校長室に行列ができ、面談の受け答えを緊張しながらも楽しんでいる。

成果

全校生のけがの状況は、右図のように改善された。校長先生が6年生に、この結果をどのように分析し、後輩に何を伝えたいかという課題を与えた。6年生からは「けがが減ったのは、保健委員が呼びかけなどをたくさんしてみんなが気をつけるようになったから。これからも、委員会を中心にしながら全校生がけがをしないように注意して学校生活を送ってほしい。」という、6年生らしい回答が出てきた。2年生においても、運動の苦手な子どもが少しずつつうんでい進み距離を伸ばして渡りきることができるようになったり、全校縦割り班の長縄飛びの練習を工夫してどの班も最高記録が100回を超したり、一人ひとりが集団の一員として努力する姿をたくさん見かけることができたようになった。



もっと楽しい学級や学校にしたいという願いが高まり、今の自分に何ができるかを考え、周囲に働きかけながら進んで取り組もうとする活力が、校内のあちこちに感じられるようになってきている。